

地域活性化研修② 実施レポート

日時：令和元年7月5日（金）13時～16時 会場：男鹿市立脇本第一小学校 参加者：31名

県内各地を訪れ、学びを生かした地域づくりの実際について理解を深める「地域活性化研修」を開催しました。「コミュニティ・スクール実体験！」をテーマに男鹿市立脇本第一小学校で研修を行い、基礎的な知識や実践事例を学んだほか、ワークショップでは「熟議」の体験も行いました。



<「目標共有」の必要性を力説>

【講話】

はじめに「コミュニティ・スクールって何？～基本を確認しよう～」のテーマで、生涯学習センターの**皆川雅仁主幹**が講話を行いました。コミュニティ・スクールとは、保護者・地域住民・学識経験者・学校長等によって構成される「学校運営協議会」を設置した学校であり、その目的は学校の方針や活動に地域のニーズを的確かつ機動的に反映させ、最終的には持続可能な地域づくりに生かすことが目的であると説明しました。また、自身が学校長としてコミュニティ・スクールの立ち上げと運営に関わった経験をもとに、コミュニティ・スクールは目的ではなく手段（ツール）であることや、学校と地域が目標を共有し、地域の未来を築く運命協働体となることの必要性を強調しました。



<地域における学校の役割を強調>

【実践紹介】

続いて脇本第一小学校の**佐藤和久校長**から、脇本第一小学校のCSの取組の特色について紹介していただきました。同校では平成28年度に学校運営協議会が設置され、今年度で4年目を迎えています。内容を見直しながら取組を進めており、学習支援やキャリア教育で成果があがっているほか、昨年度からは「熟議」も軌道に乗り、教育課題について学校と地域住民が気軽に意見を交わす場として機能しつつあるとのこと。佐藤校長からは、「地域との距離が随分縮まった」という感想と、子どもの豊かな成長につなげたいという思いを語っていただきました。そして、子ども、家庭、地域との絆で結ばれた「地域と共にある学校」であることが使命であると話していただきました。

【ワークショップ】

コミュニティ・スクールを推進するためには、関係者が同じ目標を共有することが大切であり、「熟議」はそのための有効な手法です。ワークショップでは、生涯学習センターの**柏木睦主任社会教育主事**がファシリテーターとなり、「子どもにインターネットやゲームをどう使わせるか」をテーマに熟議を体験しました。

途中でグループを替えながら、約90分にわたって意見を出し合いました。話し合いを重ねていく中で、たくさんあった意見が、最終的に「人間性」「大人も一緒に取り組む」「地域力」「体験活動」といったキーワードに集約されていく過程を体験することで、「目標を共有し、それぞれが当事者となる」ことの意味を実感できました。

結びに皆川主幹が、「様々な立場や考えの人が、話し合いを通じて目標を共有し、課題の解決に向けて協働していく。それが学校や地域の活動に反映され、成果を共有することでさらに地域が結束していくことが熟議の意義である」ことを説明し、研修をまとめました。



<テーブルを移動して新グループへ！>

【参加者の声】（抜粋）

- ・コミュニティ・スクールへの移行を目指している中、基本を学ぶことができ大変有意義でした。
- ・学校の説明から、地域とともに！という意識が伝わってきました。
- ・熟議では、話をするのでお互いの熱量が伝わり、とても刺激的で有意義であったと思います。
- ・初めて熟議の体験ができたことは、自分にとって貴重な経験になりました。